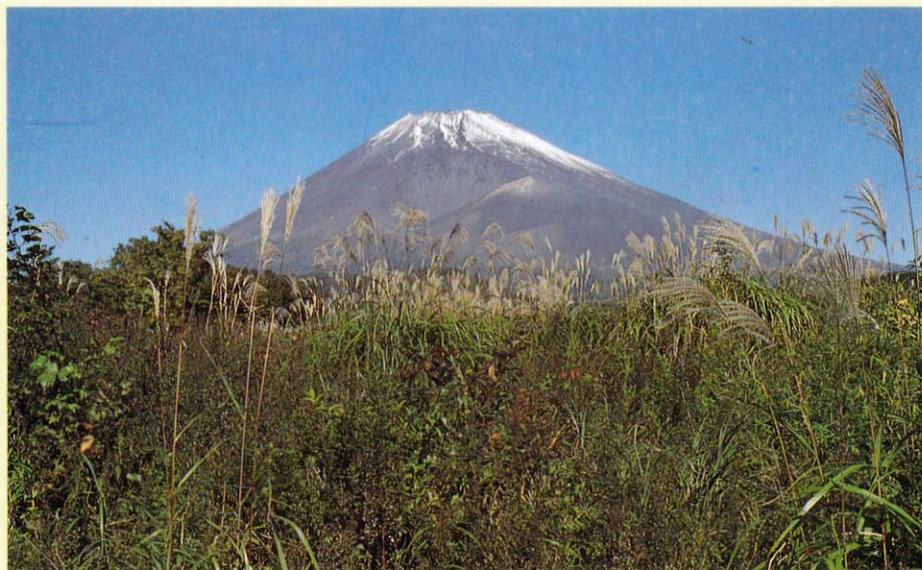


富士山麓の植物

—十里木高原、大野原—



裾野市教育委員会
裾野市立富士山資料館

富士山麓の植物

十里木高原、大野原

発刊のことば

裾野市教育委員会 教育長 芹澤 仁

私達の郷土富士山麓に生育する植物は、その宏大な広がり^{ひろがり}と垂直分布の中で、貴重な多様性が認められております。加えて季節ごとにその彩り^{いろどり}を添え、訪れる多くの人々に心を和ませ^{なご}せてくれています。

今般私共の富士山資料館では、この富士山麓に生活圏をもつ植物群の特性や、その花の美しさを保つ基本情報を提供することにより貴重な自然保護と、植物への親近感を育てることをねらいとして、「富士山麓の植物」1を発刊することになりました。

富士山麓の自然に接する多くの皆様の感動を支え、自然の理解と保護の願いを込めたこの企画は極めて時宜を得たものと自負いたしております。私達が富士山麓に生きる者として、富士に学び続けることの大切さを改めて再確認し、調査及び資料蒐集に参画された皆様に深甚なる感謝を申し述べ、発刊の辞といたします。

序 文

裾野市立富士山資料館 館長 渡辺 徳逸

富士山の自然には人間の手が入り過ぎている。富士山資料館では例年の如く市内小中学校の先生方や野鳥の会の援助で、十里木高原から弁当場周辺の植物探索会を催した。この周辺は現在植林や別荘地で自然そのものの姿は殆ど見られないが、明治の初めまでは今尚十里木頼朝の井戸の森に見る様なブナを主とする原始林に蔽われていたことが、勢子辻の草分け川村家の墓誌や富士山資料館展示の江戸幕府裁許の絵図面^{えずま}で偲ぶことが出来る。今は己に昔の夢と化した^{ゆめ}が、大正9年若山牧水は忠ちゃん牧場附近の草原に遊び、センブリを摘みぬ指痛むまでに、と歌い広大な大野原と共に千草八千草の遺産であった。特にアツモリ草や桜草の群落、就中、十里木高原の純白なアツモリ草は今だに眼前に髣髴とする。崇高な富士山を仰ぎながら歩いた過去が忘れられない。人間の生活区域が拡がるにつれて、野生動植物の圧迫されるのは仕方ないでは余りに情けない。より自然との共存が念願される昨今である。

目 次

発刊のことば 裾野市教育委員会
教育長 芹澤 仁
序 文 裾野市立富士山資料館
館長 渡辺 徳逸

十里木高原・大野原の自然	4
十里木高原・大野原の植物	9
■キブシ	10
■モミジイチゴ	10
■オキナグサ	11
■フキ (フキノトウ)	11
■アセビ	12
■コブシ	12
■ヒロハタンポポ	13
■ホトケノザ	13
■クマシデ	14
■ミツバアケビ	14
■スマレ	15
■エビネ	16
■ウマノアシガタ	16
■クサボケ	17
■フジザクラ	18
■リョクガクザクラ・タムキザクラ	18
■アマドコロ	19
■ハハコグサ	19
■アシタカツツジ	20
■フタリシズカ	21
■ゼンマイ	22

■ワラビ	22
■ツクバネウツギ	23
■ミヤコグサ	23
■マムシグサ	24
■コウゾリナ	25
■ズミ	25
■ヒロハツリバナ	26
■オオナルコユリ	27
■ナワシロイチゴ	27
■ガマズミ	28
■ノイバラ	28
■スイカズラ	29
■シロフウリンツツジ	29
■ニガナ	30
■ネジバナ	30
■イワガラミ	31
■ウツギ	31
■サルナシ	32
■キリンソウ	32
■ギンリョウソウ	33
■フジイバラ	34
■ヤマオダマキ	34
■ニシキウツギ	35
■ハンショウヅル	35
■サンシキウツギ	36
■スズムシソウ	36
■ヤマボウシ	37
■ヤグルマソウ	37
■ツルアジサイ	38
■ノハナショウブ	39

■サンショウバラ	39	■ワレモコウ	59
■クモキリソウ	40	■イタドリ	59
■サラサドウダン	41	■ナンバンギセル	60
■バライチゴ	41	■ミツバフウロ	61
■コアジサイ	42	■アキノタムラソウ	61
■オカトラノオ	43	■ススキ	62
■シモツケ	44	■ツリガネニンジン	63
■イワタバコ	44	■ホタルブクロ	63
■コオニユリ	45	■マルバハギ	64
■カキラン	46	■ヒメトラノオ	65
■ヤマアジサイ	47	■ツルリンドウ	65
■ムラサキケマン	47	■タマアジサイ	66
■カワラナデシコ	48	■ミズヒキ	66
■アカツメクサ	48	■マツムシソウ	67
■イヌタデ	49	■フジアザミ	68
■アカショウマ	49	■ヨメナ	69
■コヒルガオ	50	■トリカブト	69
■トモエソウ	51	■ツルニンジン	70
■オオバギボウシ	51	■シラヤマギク	71
■クサレダマ	52	■シシウド	71
■イワアカバナ	53	■タムラソウ	72
■チダケサシ	53	■サワヒヨドリ	73
■イヌゴマ	54	■サラシナショウマ	73
■メドハギ	55	■ノハラクサフジ	74
■メマツヨイグサ	55	■センブリ	74
■ツリフネソウ	56	■オトコエシ	75
■ハルジョオン	56	■オミナエシ	76
■ノリウツギ	57	■アキノキリンソウ	77
■センニンソウ	57	■ヤマラッキョウ	78
■コウリンカ	58	■ヤマジノホトトギス	78

■ナギナタコウジュ	79
■ノダケ	79
■イワシャジン	80
■コシオガマ	80
■ウメバチソウ	81
■フジテンニンソウ	82
■リンドウ	83
■リュウノウギク	83

■=草 花

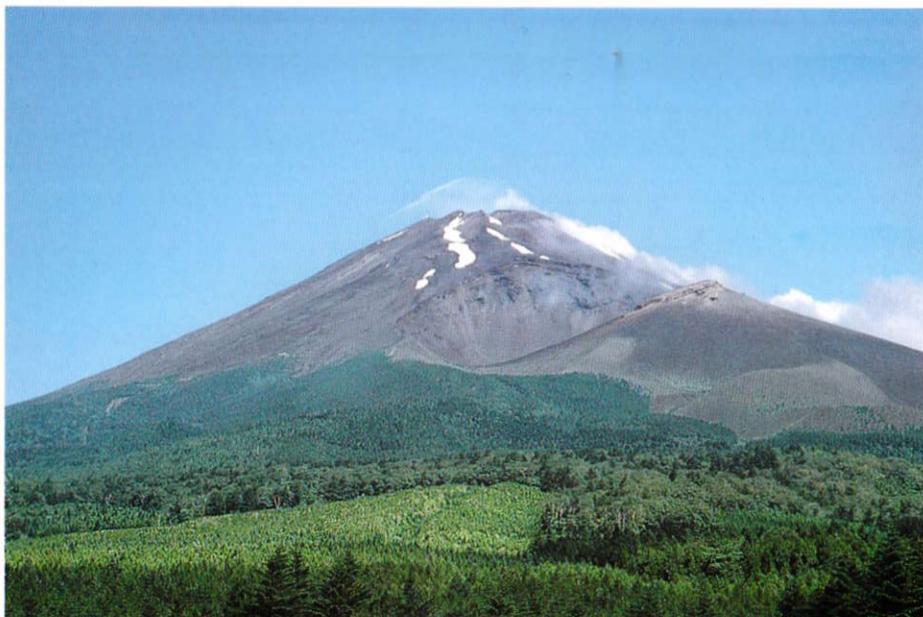
■=つる植物

■=樹 木

さくいん.....84

本書の利用にあたって

- (1) 本書で紹介しております草は、平成5年早春から晩秋にかけて、十里木高原・大野原の地域において咲くものを写真撮影し、きわめて身近な花を中心にとりあげました。
- (2) 花の紹介は開花時期の早いものから順にのせておりますが、植物の生育する場所・日当たり等の環境によって開花時期が多少前後することがあります。
- (3) 紹介しております花は、「草花」「つる植物」「樹木」の分類を各色によって区分しております。(色分けは上記の通りです。)
- (4) 花の紹介は、通常の名称にて紹介しております。また、変種は1ページ内に紹介しております。



十里木高原、大野原の自然

はじめに

海拔3776mの富士山は、日本一の高山であり、広大な裾野をもつ美しい円錐形をした姿は、日本の象徴として多くの人々から親しまれています。

富士山及びその山麓には、毎年数十万人の登山者や観光客が訪れ、豊かな自然とのふれあいを楽しんでいます。特に、富士山麓に広がる森林や草原などに生育する植物群に身を寄せたり、草花の愛らしい姿に足を止め、心の安らぎを求めている人々が年々多くなっています。

この小冊子は、富士山を訪れる自然を愛する方々のために、海拔600mから1000mの十里木高原・大野原の範囲の中で、代表的な花の咲く植物について季節を追って写真撮影したものに特徴的な解説を加えたものです。

今後、さらに富士山麓の海拔の高い地域の資料について、順次刊行する予定ですが、これが自然探索や学習に役立てば幸いです。

1 富士山の植物が育つ自然環境

火山としての富士山

富士山は、それを取り巻く四方の火山に比べて造山運動の歴史が新しく、現在見られる富士山は、今から約1万年から5千年前に形成され、現在もなお火山活動のエネルギーを内にひめている活火山です。

十里木高原・大野原の地域は、富士山本体の噴火や、その後数千年前に周辺に誕生した黒塚・罐子山・平塚などの寄生火山とよばれる側火山群の噴火の影響を強く受けているところです。

最も新しい噴火の影響は1707年で、今からわずか287年前の江戸時代に起きた宝永の大噴火とよばれるもので、富士山の南東側を中心に、海拔2,500mから山麓一帯にかけて広い範囲が砂礫に覆われた歴史があります。

富士山を、火山の生成の歴史からみると、まだ若い青年期の火山だといえます。

植物が育つ土壌

十里木周辺の地質は丸尾（まるび）とよばれる多孔質の溶岩流に広く覆われています。また、大野原一带は、火山灰や砂礫が厚く何層にも堆積している地域です。

この土地は生成の歴史が浅いために、風化が進んでいないうえに、腐食土なども少なく、きわめて貧養な土地です。また、水分の保持が悪いので乾燥したりすると植物にとっては生育しにくい場所となります。

気 候

富士山は高く、しかも他の山から独立した山です。そのために、上空の空気が流れが激しく変化し、笠雲・つるし雲などの独特な雲を作ったりします。

夏は、富士山一帯は太平洋からの海洋性の気候の影響で、湿気を多く含んだ空気が流れ込み、霧や雨の多い地帯となっています。溶岩流や火山灰などといった条件の悪い地質でありながら、山麓には原生林や草原が発達していますが、降った雨はその多くが地下にしみ込み伏流水となります。

冬は、大陸からの寒冷な強い季節風の影響を受け、雪や氷などに長い期間閉じ込められ、厳しい季節となります。

2 富士山の植物の特徴

垂直分布

富士山のような高山では、山麓から山頂へと登るにつれて生育する植物の種類が異なってくる現象が見られます。このことを「植物の垂直分布」といいます。この主な要因は、高さが増すとそれにつれて気温が低くなることによります。

植物の垂直分布は、風や雨などの気象条件や、地形・地質などの影響も受けるため、必ずしも標高が高まるにつれて正確に変わっていくとは限りません。

十里木高原・大野原の地域は、ブナ——ミズナラ帯（標高1,700~1,000m）の下部に位置し、ヤマボウシ・ミズナラ・ミズキなどの代表的な種類が多く見られます。

さらに標高が下がると自然植生は少なくなり、人の管理の手が行き届いた二次的な植生となっています。

植物の遷移

その場所に生育している植物の種類が、時間の経過にともなって他の種類に移り変わっていく現象が見られます。この現象を「植物の遷移」といいます。

遷移が起きる原因は、植物がその場所に生えては枯れていくうちに、土中の栄養分や水分が少しずつ増え、土壌が変化していきます。すると、変化した新しい土地に最も適した競争力の強い植物が繁茂してきます。また、土壌の変化だけではなく、樹木の生長につれて林間での光の奪い合いが起こります。その結果、次第に新しい植物に移り変わっていきます。

最終的に森林内は、植物の種類による上層・中層・下層の各部分での住み分けが起こり、陰樹林というものがつくられます。そして、それ以後はあまり大きな変化のない「極相林」として永続します。

富士山では宝永噴火による砂礫地が、植物の遷移について観察できる代表的な実験の場所ですが、今回の調査区域も数千年の時間しか経過していない新しい土地ですので、遷移の途中にある若い林といった観点から観察ができます。

種類や個体数の特徴

富士山は独立峰で新しい火山であるために、特有の種類はなく、生育できる種類が限定されています。しかし、山体が新しい時代に造られた土地であり、

これらの処女地へ侵入した特定の種類の個体数は多いといえます。

十里木丸尾に、直径2~3メートルもの多数の溶岩樹型が見られます。これは噴火によって流出した溶岩流が当時地表を覆っていた樹木を取り囲んで冷え固まったものです。また、大野原からは約千年ほど前に土中に埋没したヒノキの大木が発見されています。このように、かつては一大森林をなしていたと思われるこの地域も、その後の寄生火山の噴火や地殻変動・気候の変化などによって、今では想像できないくらいの大変化を起こしました。

現在、大野原はそのほとんどが二次植生で、ススキを中心とする裾野の雄大な一大群落も、野焼きや採草・自衛隊の演習地として人為的な影響を強く受けています。多様な種類は見られませんが、広々とした草原で出合う草花の可憐な姿は、私達の心の奥深くに残ります。

3 この地域の代表的な花

春：青空に純白のコブシの花が春の訪れを告げます。草原ではフキノトウ・スマレ・タンポポ・オキナグサなどが咲き始めます。雑木林では、アセビ・キブシ。少し遅れて、富士山を代表するフジザクラが、あちらこちらで咲き出します。クサボケのだいたい色の花は崩れた沢の緑などによく見かけます。

里に住む人は、春の訪れと共にヨモギの若芽を摘み取って草餅に入れたり、フキ味噌を作ったりして春の香りを楽しみます。ワラビ・タラやサンショウの若芽・フキ・ウド等々も山菜として食用にしたりします。

この地域にはかわいい花のほか、濃い赤紫の花のアシタカツツジの原生地が見られます。

初夏：鋭い刺を持つサンショウバラのピンク色の優雅な花。道端などの日当たりの良い場所を好むシモツケの小さな赤紫の花。個性的な白い花のヤマボウシは、花びらが次第に赤みががっていきます。大野原の日当たりの良い場所ではニシキウツギが沢山の花をつけます。クマシデも変わった花を咲かせます。梅雨の時期は特に沢山の樹木の花が、ひっそりと咲いています。

盛夏：大野原ではススキが茂ります。その間をぬってアザミ・オニユリ・カワラナデシコ・オカトラノオなどの花が咲き出しますが、何ととっても独特の花の、大きな背丈のシシウドや、夕方から朝にかけて咲くメマツヨイグサの黄

色の花が目立ちます。

十里木高原近くでは、フジイバラ・ギボウシ・ゴシオガマ・アキノキリンソウや、マツムシソウ・ヤマオダマキ・ツリガネニンジンなどの花が咲き乱れます。雑木林やその縁では、タマアジサイ・ノリウツギなどの低木の花や、サワヒヨドリ・トリカブト・テンニンソウ・ツリフネソウ・マムシグサ等、沢山の個性的な花が見られます。

夏の暑い盛りには、ドクダミやゲンノショウコなどの薬草を取りに野原を歩く人もいます。

晩夏：ススキの穂が一斉に咲きます。十里木高原や大野原一帯がススキの穂波に埋まる景色はとても壮観です。これらに交じり、オミナエシ・ハギなどの秋の七草や、独特の花のワレモコウ。白い花のツルカノコソウ・ウメバチソウなどが見られます。

この頃になると、休日など野の花を求めて草原に入る人の姿があちらこちらに見られます。

秋：キク科の花が多く咲きます。地味な花のヨモギ。薄紫の花のノコンギクは群落を成して咲きます。また、富士山麓の秋の終わりを予感させるリュウノウギクなども、心に残る可憐な花です。その他、野生のリンドウの濃い青色の花も印象的です。ヤマラッキョウ・センブリなどの花も日溜まりで咲いています。

山は8月には既に秋のキノコ類が出始めます。9月の後半になると雑木林の紅葉が始まり、10月中旬には、カエデやブナ科の植物の紅葉が特に見事です。林間にガマズミの赤い実などが鮮やかに見られます。

地元では初冬の12月に入る頃、昔は薪やキノコ木を切り出したり、炭焼きやクマザサの茎を使っての竹行李（たけこおり）作りに精を出しました。現在では、広い大野原でカヤ刈り（ススキ）が盛んに行われています。

十里木高原、大野原の植物



十里木高原 夏

キブシ

(キブシ科)

花期 3～4月
葉が開く前に花が咲く。木々の芽が開く前の早春の山でひときわ花が目立つ。雌雄異株で、雌花はやや緑っぽく、雄花は淡い黄色である。



モミジイチゴ

(バラ科)

花期 3～4月
キイチゴと呼ばれる。茎にはとげが多い。花は白色で下向きに咲き、6～7月に黄色の実を下向きにつける。熟した実は甘味があっておいしい。



オキナグサ

(キンポウゲ科)

花期 4～5月
花は釣鐘形で下向きに咲き、植物全体に毛が密生する。花が終わると鳥の羽のような実が多くつき、それを翁おきなの白髪にみたてて、翁おきな草ぐさとついた。

フキ(フキノトウ)

(キク科)

花期 3～5月
大野原にはふつうに見られる。葉柄部分を食用にするが、春先に出てくるつぼみをフキノトウといい、食用にする。雌雄異株で写真は雄株である。



アセビ

(ツツジ科)

花期 3～5月

葉は有毒で殺虫剤に使われ、馬が食べると苦しむので馬酔木とついたらしい。早春に、名前とは似つかわしくない、可憐な小さな白い花をたくさんつける。



コブシ

(モクレン科)

花期 3～5月

拳でつぼみの様子からつけられた。山地に生える高さ5～8mの樹木。早春、まだ芽が伸びないうちに純白の10cmほどの芳香のある花を咲かせる。花のすぐ下に緑色の小葉をつける。

ヒロハタンポポ

(キク科)

花期 3～5月

千葉から和歌山の太平洋岸に分布する。総苞と呼ばれる部分が反り返らず、先端に長いつのがあるのが特徴。花は頭花といい、たくさんの舌状花の集まりである。別名トウカイタンポポという。



ホトケノザ

(シソ科)

花期 3～6月

茎は直立し、赤紫色をおび、まばらに葉をつける。下の葉は長い柄があるが、上の葉は柄がない。上葉のわきに紅色の花をつける。春の七草は別種である。



クマシデ

(カバノキ科)

花期 4～5月
くましで
熊四手で、高さ15m
にもなる樹木。春に新
葉とともに花をつけ、
果実が垂れ下がる。葉
脈が20～24対と多いの
で、他のシデ類と区別
できる。



ミツバアケビ

(アケビ科)

花期 4～5月
つる性の落葉植物。
同じ茎に雄花と雌花が
別々に咲く。雌花は淡
い紫色で、房状に咲く
雄花に比べ大きい花で
ある。実は秋に紫色に
熟し、食用になる。上
の赤紫色の花は別花。



スミレ

(スミレ科)

花期 4～5月

日当たりのよい土手や草地に生える多年草。
葉はすべて根生し、細長い。花は濃いすみれ
色で、花柄は根生する。スミレとは「墨^{すみ}入れ」
のことである。

エビネ

(ラン科)

花期 4～5月

林の中に生える多年草。短くて結節のある根茎を持つので「海老根」という。花の色に変化が多く、がく片や花弁、唇弁など、微妙に色が違うものがある。



ウマノアシガタ

(キンポウゲ科)

花期 4～5月

日当たりの良い山野に生える有毒植物。茎や葉に毛が多く、根元の葉が馬の脚形に似ているのでついたと言われているが、どう見てもそうは見えない。



クサボケ

(バラ科)

花期 4～5月

日当たりの良い草地に生え高さ30cm位。幹は地をはうか、斜上し、幹や枝にはトゲがある。花は葉よりも先に開く。実は黄色く熟し酸味が強い。実は大きく梅の実大になる。



フジザクラ



リョクガクザクラ

フジザクラ

(バラ科) 花期 4～5月
富士山周辺では普通に見られるマメザクラを、地名をとってこう呼ぶ。幹の根元から枝分かかれし、葉が開き始める頃、白または淡紅色の花を咲かせる。



夕曇寺ザクラ

リョクガクザクラ

(バラ科) 花期 4～6月
マメザクラ（フジザクラ）の変種。フジザクラは若葉、がく、などが褐色を帯びるが、リョクガクザクラは、それらが緑色をしている。



アマドコロ

(ユリ科)

花期 4～5月

地下茎がトコロに似て、甘味があるところからこの名がついた。茎は角ばり、花は緑白色で長さ約2cm。ナルコユリは茎が丸く、角がないので区別がつく。

ハハコグサ

(キク科)

花期 4～6月

春の七草の一つ。平地の道ばたや荒地などにふつうにはえる。全体に白色の綿毛があるために、植物全体が白っぽく見える。母子草とかく。





アシタカツツジ

(ツツジ科)

花期 4～6月

富士山周辺の特産種で、十里木には野生の群落があり裾野市の花にも指定されている。花はヤマツツジより小形で、おしべが5～9本あるのが特徴。



フタリシズカ

(センリョウ科)

花期 4～6月

山地や丘陵地の林の中にはえる多年草。茎は直立し、高さは30～50cm。ふつう葉は4枚花穂が2つあるため、ヒトリシズカに対し二人静ふたりしずかという。

ゼンマイ

(シダ植物ゼンマイ科)

発芽期 4～6月
夏緑性の大形シダで根茎から先がゼンマイのように丸くなった10本位の葉を束にして出す。写真の左は実葉、右は裸葉で山菜として採集される。



ワラビ

(シダ植物ワラビ科)

花期 4～6月
日当たりのよい草原や林のふちなどに生える大形のシダで、根茎は長く地中をのびる。若芽は3枝に分かれ、食用にする。春の山菜の代表である。



ツクバネウツギ

(スイカズラ科)

花期 4～6月
高さ1～2m、枝は灰色で、細い枝先に淡黄色の花を数個ずつ咲かせる。花が終わった後の5枚のガクが、正月に使われる羽根に似ているのでついた名前。

ミヤコグサ

(マメ科)

花期 4～10月
日当たりのよい場所に生える多年草。花柄の先に1～3個の黄色の花をつける。昔、都に多かったのでこの名がある。果実は細長く熟すとはじける。





マムシグサ

(サトイモ科)

花期 4～6月

道端や林の中に生える多年草。茎にマムシのような斑点があるところからこの名がある。茎の上に花が1つつき実は熟すと赤くなる。外形の変異が著しい種である。



コウゾリナ

(キク科)

花期 4～10月

道端によく見られ、高さ60cm～1mになる。茎や葉に硬い褐色の剛毛があり、触るとゾリゾリするのが特徴。

頭花は黄色で、花は早春から晩秋まで咲き続ける。越年草である。

ズミ

(バラ科)

花期 5～6月

全体にリンゴに似ている。花は、はじめはピンクがかっているが開くと白くなる。ズミとは「染み」のことで樹皮を染料にすることから名付けられた。





ヒロハツリバナ

(ニシキギ科)

花期 5～6月

山の林の中に生える落葉低木。葉のつけねから10cm位の柄を出して、その先に薄紫の花をつける。実は熟すと赤くなり、4つにさける。



オオナルコユリ

(ユリ科)

花期 5～6月

山地の草原にはえる多年草。各節毎に鳴子なるこに似た形の花が下向きに2～3個ずつまとまってつくのでこの名がある。大野原ではしばしば群生して見られる。

ナワシロイチゴ

(バラ科)

花期 5～6月

茎がつるのようにのびる。比較的日当たりのよい場所に見られる。花は紫がかった紅色で、果実は熟すと赤くなる。



ガマズミ

(スイカズラ科)

花期 5～6月

山野の日当たりの良い所に生える高さ2～4mの樹木。花は小さく5mm位、秋になると果実が赤く熟し、甘ずっぱい味がして食用となる。



ノイバラ

(バラ科)

花期 5～6月

茎は直立し、枝分かれするので繁みのようになる。花は2cmほどで香りが良いので、採ろうとすると、鋭いとげがあり刺されて痛い思いをすることになる。



スイカズラ

(スイカズラ科)

花期 5～6月

つる性の植物で、花はクチナシに似た芳香があり、初めは白色のちに黄色に変わるので金銀花の名もある。花や葉を乾燥させたものを^{にんどうちや}忍冬茶という。

シロフウリンツツジ

(ツツジ科)

花期 5～7月

枝分かれの多い落葉低木。葉は秋には美しく紅葉する。花は球状つぼ形で、緑色を帯びた黄白色で下向きに咲く。



ニガナ

(キク科)

花期 5～7月
日当たりのよい草地にはえる無毛の多年草。茎を折ると、白色の苦みを持った乳汁が出てくる。そのためにこの名がついた。



ネジバナ

(ラン科)

花期 5～7月
花がねじれて螺旋状につくのでこの名がある。土手の芝生に多く見られる。通常は左巻きに花がつくがこの写真のように、まれに右巻きのものも見られる。



イワガラミ

(ユキノシタ科)

花期 5～7月
つる性の植物で岩や木にからみつくので、この名前がついた。外側にガクが1枚の飾り花をつけるのが特徴で、4枚のツルアジサイと区別できる。



ウツギ

(ユキノシタ科)

花期 5～7月
幹が中空であるので、空木という名前がついたと言われている。葉には毛がありざらつく。「夏は来ぬ」に歌われている卵の花がこの花である。



サルナシ

(マタタビ科)

花期 5～7月

つる性の植物で、果実が梨に似ていて猿が食べるという。熟すと甘酸っぱい味がして食用になる。マタタビは花が咲くと葉が白くなるが、サルナシはならない。



キリンソウ

(ベンケイソウ科)

花期 5～8月

きりんそう
黄輪草で、黄色の花が輪状に重なっているのでついた名前。日当たりの良い岩上に生え、葉や茎が厚い肉質で、太い地下茎をのぼし増えていく。



ギンリョウソウ

(イチヤクソウ科)

花期 5～8月

湿り気のある腐葉土に生える。白いのは葉緑体がないためで、栄養は、腐葉土の中の菌類から得ている。これでもりっぱな合弁花であり、茎には葉もある。

フジイバラ

(バラ科)

花期 6～7月

野原や林の縁などに多い落葉低木。花はノイバラに比べ大形で、茎のトゲは鋭い。果実は丸くなり熟すと赤くなる。富士山周辺の代表的なもの。



ヤマオダマキ

(キンポウゲ科)

花期 6～7月

林の縁や道端などの日当たりのよい場所に見られる多年草。花柄の先にうす黄色の花を下向きにつける。紫色で花びらのように見えるのはがく片である。



ニシキウツギ

(スイカズラ科)

花期 6～7月

じょうご型の花が数個集まってつく。ニシキは二色のことで、花が白色から赤色に変わることからこの名がある。葉の裏の中央脈上に毛がある。

ハンショウヅル

(キンポウゲ科)

花期 6～7月

日当たりのよい場所で見られるつる性の多年草。花は紅紫色で長さ2.5～3 cm位の鐘形で下向きにつき、その形を半鐘はんしやうにみたてている。



サンシキウツギ (スイカズラ科)

花期 6～7月
ニシキウツギとヤブ
ウツギの交配種である
といわれている。区別
することは難しいが、
新しく伸びた枝が木質
化する前は四角になる
という特徴がある。



スズムシソウ (ラン科)

花期 6～7月
全体の形はクモキリ
ソウに似ている。花は
紫褐色で、唇弁が大き
く、倒卵形で花全体
の形がスズムシに似て
いるのでこの名がある。
近年非常に少なくなっ
た。



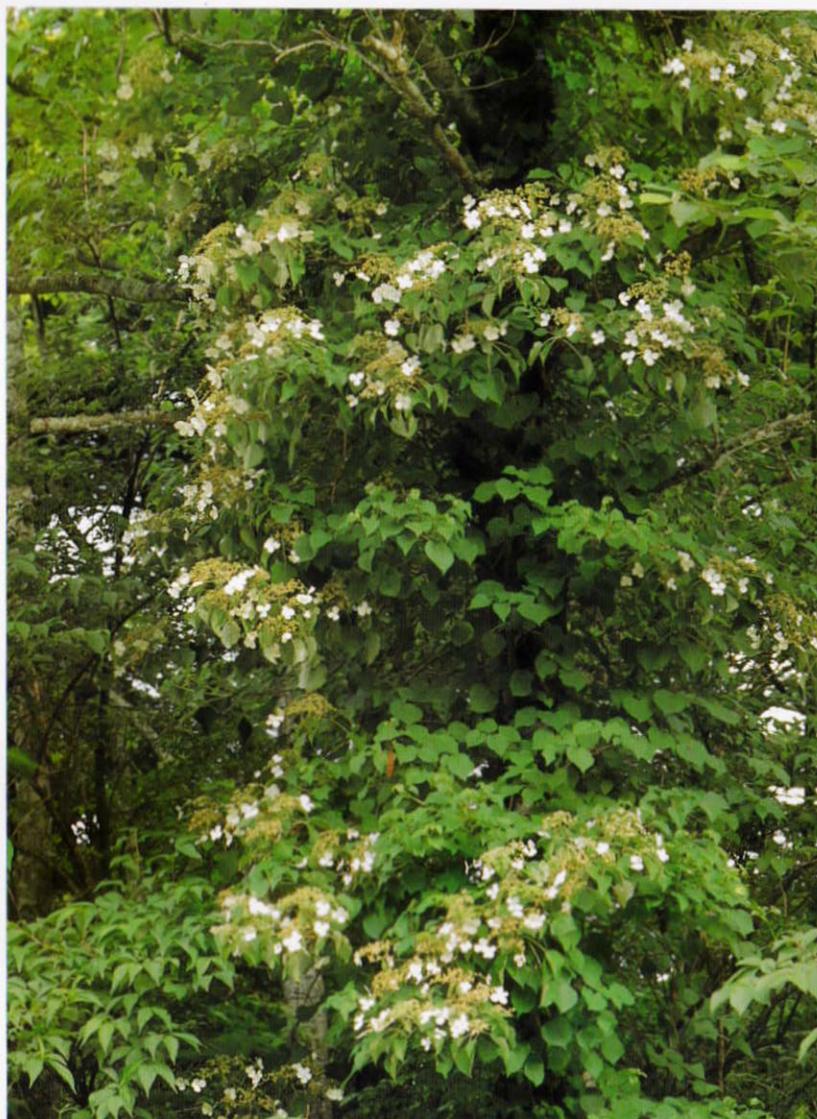
ヤマボウシ (ミズキ科)

花期 6～7月
落葉高木で、高さ10
m位になる。横に張り
出した枝の上面に上向
きに花をつけるので、
木全体が雪を載せたよ
うに白くなる。実は赤
く熟し食べると甘い。

ヤゲルマソウ (ユキノシタ科)

花期 6～7月
林の中のやや湿った
場所に生える大型の多
年草。下の葉は小葉が
矢車のようになってい
るので、この名がつい
た。小さな白い花が房
状に集まって咲く。





ツルアジサイ

(ユキノシタ科)

花期 6～7月

つる性の植物で、木や岩にへばりつき長さ15mにもなる。アジサイの花に似ているのでつけられた。飾り花が4枚のガクを持つのでイワガラミと区別できる。



ノハナショウブ

(アヤメ科)

花期 6～7月

大野原の湿地に生え、出合った時は思わず足を止めてしまう美しさがある。茎の中脈が盛り上がっているのも、アヤメやカキツバタとは区別できる。

ハナショウブの原種といわれている。

サンショウバラ

(バラ科)

花期 6～7月

葉が山椒に似ているのでつけられた。富士山周辺しか分布せず、バラ科で唯一6mの高さにもなる珍しい植物。ぜひ一度は見て欲しい。



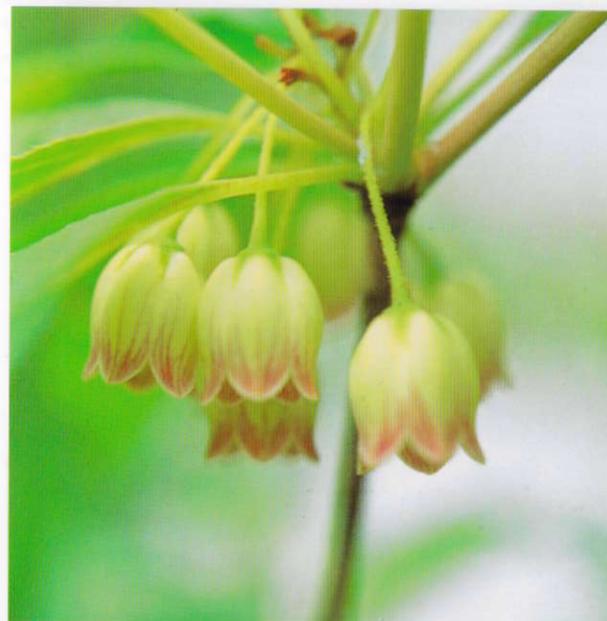


クモキリソウ

(ラン科)

花期 6～7月

林内に生え高さ15～30cm。葉は2枚で、緑色の花を先端に数個つける。この花は唇弁と呼ばれ、花びらが変形したもので、ラン特有の形をしている。



サラサドウダン

(ツツジ科)

花期 6～7月

山地に生える高さ4～5mの樹木。鐘形の花に紅色のサラサ模様があるのでつけた名前。花の先が5つに分かれている。別名フウリンツツジと呼ばれる。

バライチゴ

(バラ科)

花期 6～8月

バラに似た葉を持ち、長くのびた地下茎から高さ30～40cm程度の花枝が出てきて、その先にやや大形の白い花をつける。実はやや大形で熟すと赤くなる。





コアジサイ

(ユキノシタ科)

花期 6～7月

林に生える高さ1～2mの樹木。アジサイの仲間はガクの大きくなった飾り花があるが、コアジサイはそれが無いのでアジサイと見られないことが多い。



オカトラノオ

(サクラソウ科)

花期 6～7月

日当たりの良い草原に生え、花が虎の尾のようになるためにつけられた。地下茎が横に這い群生するので、草原をうめつくす様子は見事である。

シモツケ

(バラ科)

花期 6～8月

栃木県の下野で発見されたのでついた名前。高さ1mほどで茎の先端に紅色の小花をたくさん咲かせる。おしべは花びらよりずっと長く、目立つ。



イワタバコ

(イワタバコ科)

花期 6～8月

湿った岩場に生え、葉がタバコの葉に似ているのでついた名前。葉は10～20cmと大きく、岩壁に群生し紅紫色の花が咲く様子は見事である。



コオニユリ

(ユリ科)

花期 6～8月

大野原の日当たりの良い湿地に、鮮やかなオレンジ色の花を咲かせる。茎は高さ1～2mにもなる。葉のつけ根に丸いむかごが無いのでオニユリと区別できる。



カキラン

(ラン科)

花期 6～8月

日当たりの良い湿地に生えるランで、花の色が柿色に似ているのでついた名前。大野原でも数が少なく、なかなか出会えなくなっている。



ヤマアジサイ

(ユキノシタ科)

花期 6～8月

別名サワアジサイともいい、湿った林内に生える。中心に両性花、周囲に飾り花がある。白い花が多いが、花の終わりには赤く色変わりする。

ムラサキケマン

(ケシ科)

花期 4～6月

湿った所に生え、茎の高さは20～50cm。全体が柔らかく、葉はセリに似ている。花は1～2cmで紅紫色、形は筒状で、茎の上部にびっしりと咲く。



カワラナデシコ

(ナデシコ科)

花期 6～9月
秋の七草の1つで、撫子^{なでこ}は可憐な花の様子を表した。花びらの先が細かく切れこむのが特徴で、別名ヤマトナデシコ、ナデシコと呼ばれる。



イヌタデ

(タデ科)

花期 6～11月
別名アカマンマとも呼ばれ人里によく見られる。茎は枝分かれし横に這うので、群生する。枝先に紅色の小花を密生するが、花びらは無く、がく片である。



アカツメクサ

(マメ科)

花期 6～9月
ヨーロッパから牧草として輸入されたので牧場のある高原に多い。茎は高さ30～60cmで全体に毛がある。花の色は濃淡さまざまでムラサキツメクサの別名もある。

アカショウマ

(ユキノシタ科)

花期 7～8月
山野のやや湿った草原や半日陰の土手などにはえる多年草。高さ30～80cm。変種の多い植物だが、茎の基部が赤みを帯びることから名付けられた。





コヒルガオ

(ヒルガオ科)

花期 7～8月

日当たりのよい草地にはえるつる性多年草。葉は矢じり形または鈍形をし、3個に切れ込み、主部は卵形、アサガオを小さくしたようなうす紅色の形である。



トモエソウ

(オトギリソウ科)

花期 7～8月

日当たりのよい山中の草地にはえる多年草。花は茎の一番上に数個集まって咲く。花弁が曲がって^{とび}巴形につくので巴草という。

オオバギボウシ

(ユリ科)

花期 7～8月

日当たりの良い山野に生え、観賞用にも栽培される。花は咲くときには下を向き、朝開いて夕方にはしぼんでしまう。若い葉は食用になる。





クサレダマ

(サクラソウ科)

花期 7～8月

「腐れ玉^{くさだま}」でなく「草レダマ」でマメ科のレダマという植物に似ているのでついた名前。高さは1mもあり、夏の大野原でも、しっかり目立つ。



イワアカバナ

(アカバナ科)

花期 7～8月

湿っぽい岩の上に生え、秋になると葉が紅色になるのでつけた名前。花びらは4枚であるが浅く2つに切れるので8枚あるように見える。

チダケサシ

(ユキノシタ科)

花期 7～8月

高さ50～60cmで湿地に生える。長野県ではチダケというキノコをこれに刺して持ち帰ったことからついた。淡いピンクの花は群生すると、非常に美しい。





イヌゴマ

(シソ科)

花期 7～8月

湿った所に生え、果実がゴマに似ているが役に立たないので、この名がついた。シソ科の特徴である四角の茎に、硬い毛が生えている。



メドハギ

(マメ科)

花期 7～9月

日当たりのよい場所に多い多年草。葉を密につける。花は有弁花と閉鎖花があり、有弁花は黄白色で元のほうが紫色を帯びている。

メマツヨイグサ

(アカバナ科)

花期 7～9月

北アメリカ原産の帰化植物。マツヨイグサと同種だが、全体に小型で花も直径3～5cmとやや小さい。花は夕方開き、翌朝にはしぼんでしまう。



ツリフネソウ

(ツリフネソウ科)

花期 7～9月

半日陰の湿った場所に生える1年草。花の形が舟に似ているところから釣舟草という。茎にはほとんど毛がなく、所々赤みを帯びてやわらかい。

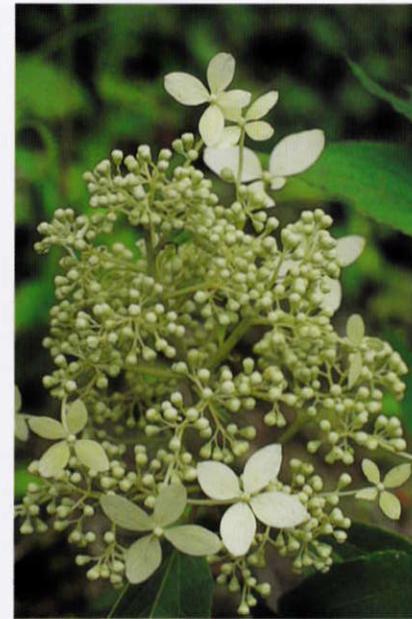


ハルジオオン

(キク科)

花期 7～9月

道ばたや土手などにふつうに見られる。茎は直立し、一番上に散房状の花をつける。花はピンクまたはかすかに赤みを帯びる。北アメリカ原産の帰化植物。



ノリウツギ

(ユキノシタ科)

花期 7～9月

落葉低木。1～2mになるような徒長枝をのばす。花はアジサイに似ている。樹皮の内側が粘質に富み、和紙を作るときの糊として利用される。

センニンソウ

(キンポウゲ科)

花期 7～9月

つる性の植物で、他の草によく絡み付く。花は2～3cmで、白い4枚の花びらのように見えるのは、実はガクで本当の花びらはない。有毒植物である。



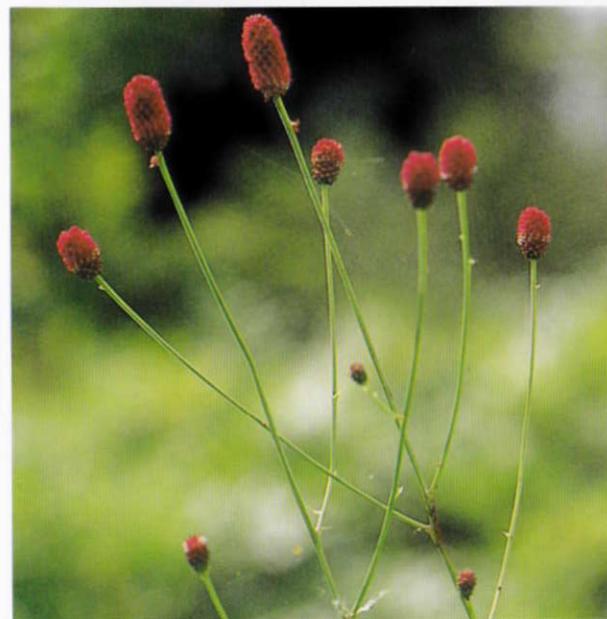


コウリンカ

(キク科)

花期 7～9月

紅輪花で、花の様子からつけられた名前。ススキの原にポツンポツンと生え、けっして集団を作ることはない。オレンジ色の長い舌状花が特徴である。



ワレモコウ

(バラ科)

花期 7～10月

山地の草原や低地の野原で普通に見られる多年草。茎の先に濃い赤色をした団子のような花序をつける。根は止血の民間薬として知られる。

イタドリ

(タデ科)

花期 7～10月

日当たりの良い山野によく見られる。茎は中空で、若い茎は食用となるが酸味が強い。花の色が紅色のものをメイゲツソウといい富士山に生える。





ナンパンギセル

(ハマウツボ科)

花期 7～10月

ススキなどのイネ科の植物の根に寄生する肉質無毛の寄生植物で、全体が赤色を帯びている。大野原の比較的丈の短いススキの根元によく見られる。



ミツバフウロ

(フウロソウ科)

花期 8～10月

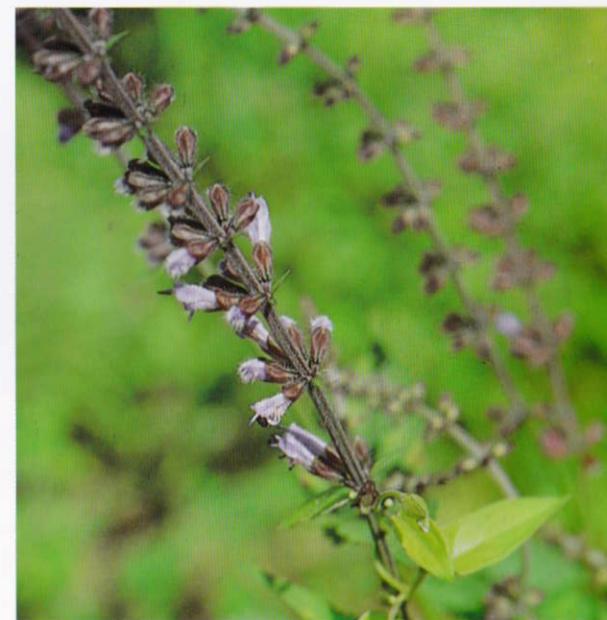
日当たりのよい草地に生える。茎は横にはい、高さ40～80cmになる。ゲンノショウコに似て茎の上部と葉柄に毛が多い。花は淡紅色で大きさは1～1.5cmとなる。

アキノタムラソウ

(シソ科)

花期 7～11月

林の中などに生える多年草。茎には細かな毛がある。花は長さ1cm位で、薄い紫色になるが白色に近い色になる場合もある。





ススキ

(イネ科)

花期 7～10月

いわずと知れた大野原を代表する植物。富士山をバックに夕日になびいているススキの様子は、誰でも詩人にしてしまう美しさがある。



ツリガネニンジン

(キキョウ科)

花期 8～9月

日当たりのよい草地に多い。葉は3～5枚輪生し、紺色のつり鐘のような花が何段も咲く。根は朝鮮人参のような形状をしている。若芽は食用になる。

ホタルブクロ

(キキョウ科)

花期 8～9月

高さ40～80cm位の直立した茎に、うすい紅紫色で袋状の花をつける。この花冠にホタルを入れて持ち帰ったことからこの名がある。





マルバハギ

(マメ科)

花期 8～9月

高さ1m程の草と木の間のような植物。花をつける柄が葉先よりも長くなることなく、丸みのある葉に抱かれるように紅紫色の花がつく。



ヒメトラノオ

(ゴマノハグサ科)

花期 8～9月

日当たりのよい場所に多く見られる。青紫色の花をつける花穂をトラの尾にみたててこの名がある。ヤマトラノオに比べ、葉が細長く、短い葉柄がある。

ツルリンドウ

(リンドウ科)

花期 8～9月

茎は細長く地面をはったり、他のものに巻きついたりする。花はリンドウに似て清楚である。果実は丸く、熟すと紅紫色になり、花とは違った趣がある。

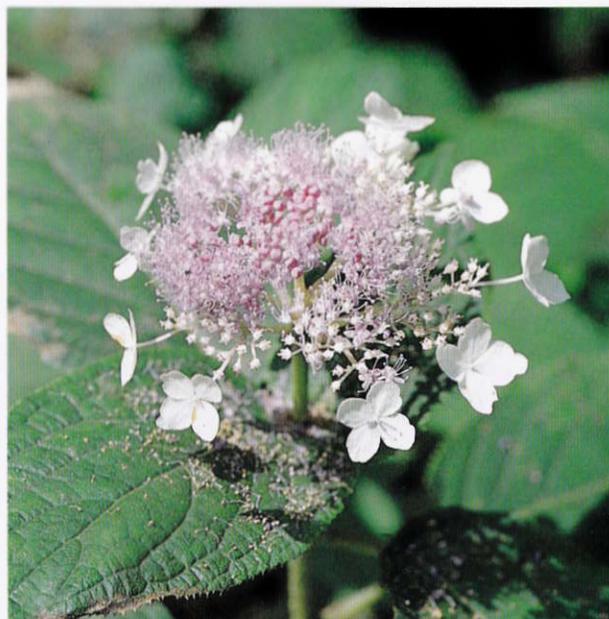


タマアジサイ

(ユキノシタ科)

花期 8～9月

蕾が球のように見えるのでついた名前。高さは1mほどで、葉は大きいが薄く両面に毛がありざらつく。花は淡紫色で、外側に白い飾り花をつける。



ミズヒキ

(タデ科)

花期 8～10月

林や、やぶのような所に多く見られる多年草。花は長さ20～40cmの花穂にまばらにつき、上部は赤色で下部は白色になるので、水引にたとえて名がついた。



マツムシソウ

(マツムシソウ科)

花期 8～10月

日当たりのよい高原の草地に生える。上に向かって伸びた花柄の先に直径3～4cm位の紫色の花をつける。マツムシの鳴く頃開花するのでこの名がある。



フジアザミ

(キク科)

花期 8～10月

日当たりのよい砂礫地にはえる多年草。アザミの仲間ではもっとも大型で、直径5～8cm位の花を下向きにつける。根は非常に長く食用となる。



ヨメナ

(キク科)

花期 8～10月

山野の湿ったところや道端にはえる多年草。茎は高さ50cm～120cm位で上部でよく分枝する。頭花は小枝の先に1個つき、やや紫色を帯びている。

トリカブト

(キンポウゲ科)

8～10月

花の形が、鳥兜トリカブトに似ているところから名付けられた。林の縁などに普通に見られる。根にはアルカロイド系の猛毒を含み、昔は弓矢に塗って猟に使った。





ツルニンジン

(キキョウ科)

花期 8～10月

つる性で、根が朝鮮人参に似ているのでついた名前。葉は細長く無毛で、裏は白色。別名ジイソブ。これと似ているバアソブは、葉が丸みがあり有毛。



シラヤマギク

(キク科)

花期 8～10月

高さ1 mほどで、茎や葉にざらざらした毛がある。花は2 cmほどで舌状花の数は少なく、ぜつじょうか他のキク科の植物と区別できる。若葉はムコナといい食用になる。

シシウド

(セリ科)

花期 8～10月

猪が食べるウドなのでつけられたという。高さ2 mほどで、茎の先端が傘のように広がり、白い小花をたくさん咲かせる。高原の夏を代表する植物。





タムラソウ

(キク科)

花期 8～10月

高さ50～150cmで、アザミに似た花をつける。葉もアザミに似ているが刺はなく、柔らかいので触ってみると簡単に区別ができる。



サワヒヨドリ

(キク科)

花期 8～10月

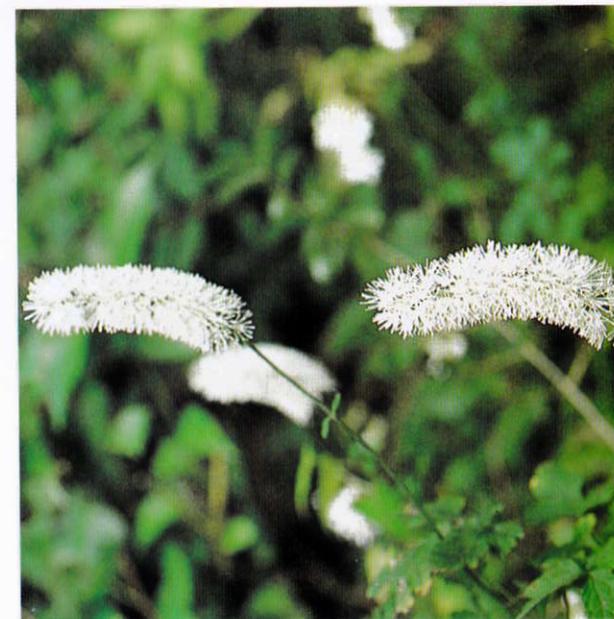
大野原の湿地に生え、高さ40～90cm、茎は枝分かれせず、茎の上部や葉には毛が多い。花は筒状花といい、近くに寄って観察してみると興味深い。

サラシナショウマ

(キンポウゲ科)

花期 8～10月

若葉を水でさらして食べたことからついた名前。林の中に生えるので白さが目立つ。花びらは早く落ちてしまう、花のように見えるのは白いおしべである。



ノハラクサフジ (マメ科)

花期 6～9月
日当たりのよい草原に生え、つる性で茎の長さは1.5mにもなる。小葉はほとんど無毛。クサフジは毛が有るので区別できる。和名は野原草藤で、姿が藤の花に似ていることによる。



センブリ (リンドウ科)

花期 8～11月
千振^{せんぶり}で、千回振り出しても苦いことからつけられた。胃腸薬にすることは有名であるが、花をよく観察すると、星形に開き清楚で気品がありとても美しい。



オトコエシ (オミナエシ科) **花期** 8～10月

葉や茎など植物全体に毛が多く、茎の先に白い小さな花がたくさん咲く。長いつる枝をのばして繁殖する。オミナエシより強剛であるのでつけた名前。



オミナエシ

(オミナエシ科)

花期 8～10月

十里木高原の秋を彩る植物の代表。秋の七草の一つで、全体が優しい感じを女郎じやろうにたとえたもの。花の色が白いのをオトコエシといひ全体が頑丈である。



アキノキリンソウ

(キク科)

花期 8～11月

秋に咲く花の代表で、十里木高原を黄金色に染める様子は、人の目をひいて美しい。黄色の花がキリンソウに似ているのでつけられた名前。

ヤマラッキョウ

(ユリ科)

花期 9～10月

日当たりのよい草原に多く見られる。卵形の鱗茎を持つ多年草。葉は2～5枚を根生し三角柱状になる。花は紅紫色で全体が直径3cm位になる。



ヤマジノホトトギス

(ユリ科)

花期 9～10月

湿った林中やがけに生える多年草。花は白色で内部に紫色の斑点がある。上部は平開するが反りかえらない。和名は山路のホトトギスの意味である。



ナギナタコウジュ

(シソ科)

花期 9～10月

日当たりのよい道端などにはえる一年草。花穂が薙刀なきなたのように一方に傾いて花をつけるためにこの名がついた。

ノダケ

(セリ科)

花期 9～10月

草地などに多い、大形の多年草。茎が紫色をおび、高さ1mをこえる。茎の上部の散形花序に暗紫色の花をつける。花序の付け根にやや大形の包が残る。



イワシャジン

(キキョウ科)

花期 9～10月

本州の中部地方の太平洋側にのみ分布する珍しい植物。湿った岩肌に、垂れ下がるように生える。最近富士山周辺でも数が少なくなっている。



コシオガマ

(ゴマノハグサ科)

花期 9～10月

日当たりの良い草地に生える半寄生植物。全体に柔らかい毛をたくさんつける。葉は対生し深く切れこみ、花は2cm位で特徴的な唇形をしている。



ウメバチソウ

(ユキノシタ科)

花期 9～10月

日当たりのよい草地にはえ、葉はハート形で、真白な梅のような花を1つ茎の先につける。この花が盛りを迎えると、十里木高原の秋も深まっていく。



フジテンニンソウ

(シソ科)

花期 9～10月

日本全国にあるが富士山周辺には特に多い。シソ科の特徴で茎は四角になり、茎の先に黄色い花を穂のようにつける。おしべめしべが長く、とび出ている。



リンドウ

(リンドウ科)

花期 9～11月

日当たりのよい草地に多く見られる。花は長さ4～5cmでろうと形に開く。茎の先にかたまってしまうが葉の脇にも咲く。秋の代表的な花である。

リュウノウギク

(キク科)

花期 10～11月

日当たりのよいやや乾いた草地にはえる多年草。独特の香りがあるので龍腦菊りゅうのうぎくと名付けられた。花はふつうは白いが、うす紅色をおびることもある。



さ く い ん

ア	アカショウマ	49	キ	ギンリョウソウ	33
	アカツメクサ	48	ク	クサボケ	17
	アキノキリンソウ	77		クサレダマ	52
	アキノタムラソウ	61		クマシデ	14
	アシタカツツジ	20		クモキリソウ	40
	アセビ	12	コ	コアジサイ	42
	アマドコロ	19		コウリンカ	58
イ	イタドリ	59		コウゾリナ	25
	イヌタデ	49		コオニユリ	45
	イヌゴマ	54		コシオガマ	80
	イワアカバナ	53		コヒルガオ	50
	イワガラミ	31		コブシ	12
	イワシャジン	80	サ	サラシナショウマ	73
	イワタバコ	44		サラサドウダン	41
ウ	ウツギ	31		サルナシ	32
	ウマノアシガタ	16		サワヒヨドリ	73
	ウメバチソウ	81		サンシキウツギ	36
エ	エビネ	16		サンショウバラ	39
オ	オオナルコユリ	27	シ	シシウド	71
	オオバギボウシ	51		シモツケ	44
	オカトラノオ	43		シラヤマギク	71
	オキナグサ	11		シロフウリンツツジ	29
	オトコエシ	75	ス	スイカズラ	29
	オミナエシ	76		ススキ	62
カ	カキラン	46		スズムシソウ	36
	ガマズミ	28		スミレ	15
	カワラナデシコ	48		ズミ	25
キ	キブシ	10	セ	センニンソウ	57
	キリンソウ	32		センブリ	74
				ゼンマイ	22
			タ	タマアジサイ	66

	タムラソウ	72	フ	フキ (フキノトウ)	11
チ	チダケサシ	53		フジアザミ	68
ツ	ツクバネウツギ	23		フジイバラ	34
	ツリガネニンジン	63		フジザクラ	18
	ツリフネソウ	56		フジテンニンソウ	82
	ツルアジサイ	38		フタリシズカ	21
	ツルニンジン	70	ホ	ホタルブクロ	63
	ツルリンドウ	65		ホトケノザ	13
ト	トモエソウ	51	マ	マツムシソウ	67
	トリカブト	69		マムシグサ	24
ナ	ナギナタコウジュ	79		マルバハギ	64
	ナワシロイチゴ	27	ミ	ミズヒキ	66
	ナンバンギセル	60		ミツバアケビ	14
ニ	ニガナ	30		ミツバフウロ	61
	ニシキウツギ	35		ミヤコグサ	23
ネ	ネジバナ	30	ム	ムラサキケマン	47
ノ	ノイバラ	28	メ	メドハギ	55
	ノダケ	79		メマツヨイグサ	55
	ノハナショウブ	39	モ	モミジイチゴ	10
	ノハラクサフジ	74	ヤ	ヤグルマソウ	37
	ノリウツギ	57		ヤマアジサイ	47
ハ	ハハコグサ	19		ヤマオダマキ	34
	バライチゴ	41		ヤマジノホトトギス	78
	ハルジョオン	56		ヤマボウシ	37
	ハンショウヅル	35		ヤマラッキョウ	78
ヒ	ヒメトラノオ	65	ヨ	ヨメナ	69
	ヒロハタンポポ	13	リ	リュウノウギク	83
	ヒロハツリバナ	26		リョクガクザクラ	18
フ	フキ (フキノトウ)	11		リンドウ	83
	フジアザミ	68	ワ	ワラビ	22
				ワレモコウ	59

あ と が き

先日、富士山資料館に1人の来館者がありました。「この花は何でしょう。」という問いかけでした。手には、抜き取られた1本の花を持っていました。花の美しさ、可憐さに魅せられたのでしょうか。私達が美しく心引かれる自然の中で育った草花を、もっと大切に多くの人々に見守ってもらいたいものです。

今回私達が「富士山麓の植物」第1集を企画した点は身近に咲く草花を多くの人々に知っていただくと共に、触れあっていただくことに一つのねらいがあります。1年間という期間の中で写真取材していると、草花の美しさ、可憐さをカメラのレンズを通して知り、ある時は草花の美しさ精巧さに身体を震わせることさえあり、大野原に咲くカキランやナンパンギセルの花に身を寄せました。

山麓の植物写真集も次回は水ヶ塚周辺へと準備を進めていきますが、今回の企画・取材・解説の作成へと各調査員の皆様には、その活動に深く感謝致します。

参考文献

○静岡県植物誌

杉本 順一著 第1法規

○原色日本植物図鑑

北村 四郎、村田 源

堀 勝著 保育社

○原色牧野植物大図鑑

牧野富太郎著 北隆館

調査員

執筆調査員

渡辺 宏行 裾野市立千福が丘小学校教頭

大森 紀行 裾野市立向田小学校教諭

山本 康史 裾野市立須山中学校教諭

写真取材調査員

飯塚 勉 裾野市教育委員会社会教育指導員

渡辺 政治 裾野市教育委員会社会教育指導員

滝 道雄 日本野鳥の会東富士支部会員

井上 輝夫 裾野市立富士山資料館学芸員

杉山 義則 裾野市立富士山資料館指導員

編集 平成6年3月 改訂 平成8年6月

発行 裾野市立富士山資料館

裾野市須山2255の39

印刷 みどり美術印刷株式会社

館長 渡辺 徳逸

井上 輝夫 杉山 義則

杉山 末雄 渡辺 節代